

成長基盤 3年で築く

新報国製鉄が2017年12月期から3カ年の中期経営計画をスタートした。16年度は過去最高の経常利益を計上し、リーマン・ショック後のどん底からの構造改革を完了。ようやく成長戦略を描くステージに移した。成瀬正社長はあえて29年度に売上高100億円という長期目標を掲げ、中計3カ年をその基盤づくりに位置付ける。

—中計最終年度の19年度ではなく、さらに「社員の上気を上げ10年先の29年度目標をすることを考えた。当社新報国製鉄社長

成瀬正氏



低熱膨張合金、米など開拓

はリーマン・ショックで大変な痛手を負い、売上高は約70億円から20億円以下に、人も半分になった。最高益に事。この3年で基盤を築き、次の10年で飛躍を期す

—主力の低熱膨張合金

も目を向けていきた。低熱膨張合金では十分に使いきなせたい。旧住友金属工業のと自負している。英語論文を発表することし、直接指導を頂いて必要だ。この3年で米国進出へのきっかけをつかみたい

—研究開発に相当、

なつたからといって浮かれず、もう一度、原点から会社のあり方を考えた。まず基礎を

「宇宙航空研究開発130度Cでも縮まない合金を納入できた。今後は米国など海外に

(合併・買収)にも触れていきます。た。内視鏡の部品に使

行くことはしないが、高い技術を持つ中小企業は多い。例えば、すに埼玉県のチタン研

指揮すべき仕事まだ多い

記者の目

1月1日付で三重県川越町の製造子会社を吸収し、09年に着手した一連の構造改革が一段落。本社工場の大半は商業施設となり、機能は研究開発やファブレスの素形材事業の拠点に生まれ変わった。ただ、半導体・液晶産業向けの比重が高い状況は同じ。新しい柱を早急に立ち上げるため、人材育成や設備投資、協力企業との連携など成瀬社長が指揮すべき仕事はまだ多い。

(編集委員・大橋修)